□はリンク　　※はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名　うえつき　※

日付　平成　20年 12月 18日

評価機関名　特定非営利活動法人 ライフサポート

評価調査員　在宅介護経験15年

評価調査員　介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※

1．評価結果の概要

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

「今日は大勢で嬉しいわ」元先生のAさんに迎えられ、皆と一緒に昼食を食べる。「若い人が多いんですね」職員の事を言ったつもりが、若い人の言葉に反応して「はい！」Aさんがすかさず手を挙げる。Aさんはいつもハイテンション、明るく元気だ。ずっと「美味しいね」を連発しながら、食べる事と喋ることに忙しい。指の動きにくい人も自分なりのやり方で、器用に箸を使って食べている。ホームは糖尿病の人に配慮して、カロリー控えめのマンナン入りの米を使用しているが、食べた感じは普通のお米と全く変わらない。安心しておかわりできるので食事制限のストレスもない。整腸作用のある自家製ヨーグルトのデザートも添え、野菜たっぷり旬の食材を生かした食事はとても美味しい。どの人も、それぞれのペースで食べる事を楽しんでいる。最高齢96歳のBさんも、ゆっくりニコニコ食べている。職員が話しかけながらタイミングを見て介助しているが、自分でも箸を持って食べているので、食べさせて貰ってる感じがしない。いつも赤ちゃん人形を抱いて頬ずりしながら優しい笑みのBさんはホームのアイドルだ。Bさんの体調が良くない時は、仕事が終わって家に帰っても気になって様子を見に来る職員もいる。「はい、咬む、咬む、パク、パク。そうそう、上手やな」Aさんは先生になってBさんに話しかける。Bさんは自分に言ってくれているのを感じて「ハ、ハ、ハ」と声を上げて笑う。笑いかけられて幸せ気分になったAさんは「今日は楽しいなーと言うと「何が楽しいんじゃ」とCさんがつっこむ。ニコニコモグモグ食べるBさんの食事介助を職員も楽しんでいる。時間がかかることなど全く気にならず「かわいいなんて言ったら失礼だけど、かわいいよなー」「こんな風に年を取れたらいいよなー」食事の終った皆でBさんに見とれている。Cさんも「うまいか？うまいなー」と笑顔で話しかける。皆の気持ちはちゃんとBさんに伝わり、ハハハ、ニコニコ、モグモグのリズムでしっかり食べてくれる。それが愛しくて嬉しい。皆がBさんに癒されている。「日々特別な事は何もないけれど、平々凡々、思いのままにやりたい事して笑って暮らせたらいい。80、90年と生きてきた方々に、お世話するなどおこがましい。私自身が逆にパワーをもらっている。自分の家にいるよりホームの方が落着く」と管理者は言う。管理者・職員・利用者達みんなの「第2の我が家」の住み心地は最高だ。

特に改善の余地があると思われる点

このグループホームは、設立して4年半を経過した。オーナーは管理者の思いのままさせてくれるそうだ。それは全面的に管理者を信頼しているからであろう。申し送りノートにも、オーナーに伝えたこと、オーナーからホームの管理者や職員に対しても含めて、手厳しい事を管理者が書いている。利用者の幸せを気にかけている様子もわかる。

このホームは認知症の重症化してしまった人も、まだ軽度な人も一緒になってホームの生活を楽しんでいることも不思議なくらい仲が良い。

こんなホームの姿をもっと参考にしてもらいたいホームも多いのではないかと思っている。

２．評価結果（詳細）

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目　グループホームとしてめざしているものは何か

記述回答
①　自主評価について･･：　見るからに楽しいホームであり、一人ひとりの個性を発揮しているので、まさに理念に掲げている生活が実現している。このままのホームでよく、家庭で暮らすより楽しいホームに育てていって欲しい。
②　全体的に見て･･：　「その人らしいって何だろうね」管理者は職員と話し合う。職員にはもっと勉強して、言葉でなく実感として、具体的に認知症を理解して欲しいと考え、教育や研修に力を入れている。又、職員同士の人間関係を重視し、気持良く働ける職場でありたいと思っている。人材教育に取り組む管理者の思いは職員達に深く浸透し、離職者も殆んどない。生き生きと働く職員達に支えられ、利用者にとっても居心地の良いホームが生まれていた。

Ⅱ 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目　入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

記述回答
①　自主評価について･･：　ホームのリビングルームから外へウッドデッキが広がり、そこにベンチがある。そこから眺める風景は外国の絵ハガキにあるような南欧イタリアを想い起せる居心地の良さで、リーフレットにうたっている姿そのものだ。
②　全体的に見て･･：　地域の文化祭に出品する作品を持って行くAさん達に同行する。「あら、きれい！見てあげて」花の好きなAさんは、道端の花を見るたび歓声を上げる。黄色く色づいたイチョウの木に「わー胸がドキドキしてきた」と興奮する。「ええな、Aさん何見ても感動出来て」職員が羨ましがる。子供に会うと「はーいさよなら」と手を振り、庭先の住人を見ると「こんにちは」と声をかける。すぐに近くの公民館までの道のりは絶好の散歩コースだ。展示を済ませホームに帰ると、お気に入りの玄関先のベンチに腰かけたCさんが迎えてくれる。何気ない日常が温かくて優しい。

Ⅲ ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者･家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り･情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法･盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見･対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目　一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

記述回答
①　自主評価について･･：　皆で季節毎に作る作品は見事なもので、いつ見ても感心する。利用者の得意で作業分担して、今は来年の牛の作品に取りかかっている。
②　全体的に見て･･：　Dさんは転倒･骨折し全介助の寝たきり状態でホームに来た。様子を見て朝食後トイレ誘導すると、排便に成功した。Dさん自身もトイレでの排泄が気持良かった。たまには尿意も訴えるようになり、オシメから紙パンツになった。寝た切りから車椅子での時間が徐々に増え、今はリビングで毎日新聞を読み、箸を使って食事もとれる。糖尿病で食事制限があり怒りっぽかった人が、嗜好を取り入れ工夫したホームの食事で、血糖値も安定し、むくみもとれた。気持を大切にした関わりで不満がなくなり怒らなくなった。いつもニコニコしているその人を見て、家族も主治医も驚いているそうだ。ホームに入所して改善した事例は多い。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	

記述項目　サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

記述回答
①　自主評価について･･：　オーナーは心療内科医師であり、また、日常相談に乗ってくれる理学療法士（オーナーの息子）から管理者は全面的な信頼を得て、職員と共にこのホームを運営している。系列のグループホームの管理者からも相談を受けたりしている実力者である。
②　全体的に見て･･：　管理者は、運営推進会議の出席者に参加して良かったと思って欲しいと考え、毎回認知症に関する資料を配布していた。それがきっかけになり、会合で認知症の話しをして欲しいと頼まれた。管理者の現場を踏まえた具体的な話しは「ある程度認知症のことは理解しているつもりでも関わり方が分からなかった。どう声をかけたらよいか分かって役に立った」と喜ばれた。代表者からもそろそろ地域での啓蒙活動をしていこうと言われている。ホームは地域の人が認知症で困った時は、いつでもかけこめる場になりたいと意欲的だ。